



家族や身近な人が
認知症になった時、
私たちは…

特集

考えてみませんか、 認知症

認知症は、誰にでも起こる可能性のある脳の病気です。さまざまな原因から脳の細胞が破壊されたり、働きが悪くなることで、状況を判断したり、自立した生活を送ることが困難な状態になります。知的機能の低下に伴う、生活障がいともいえる認知症。85歳以上の約4割が発症しており、今後20年で倍増するとも言われています。

家族や身近な人が認知症になったとき、私たちはどのような対応をしたらいいのでしょうか。今号では、認知症について紹介します。

原因はひとつなのか？

認知症の主な原因は左記の3つですが、他にもさまざまな病気が原因となり、複数の病気を併発する事もあります。

●**アルツハイマー型認知症**…脳の神経細胞にタンパク質のごみがたまって細胞が破壊され、脳が萎縮する病気

●**脳血管性認知症**…脳の血管が詰まったり（脳梗塞）、破れたり（脳出血）して血流が途絶え、脳細胞が死滅するために起こる認知症

●**レビー小体型認知症**…レビー小体と呼ばれる異常なタンパク質が脳内の神経細胞にたまる病気

どんな症状なの？

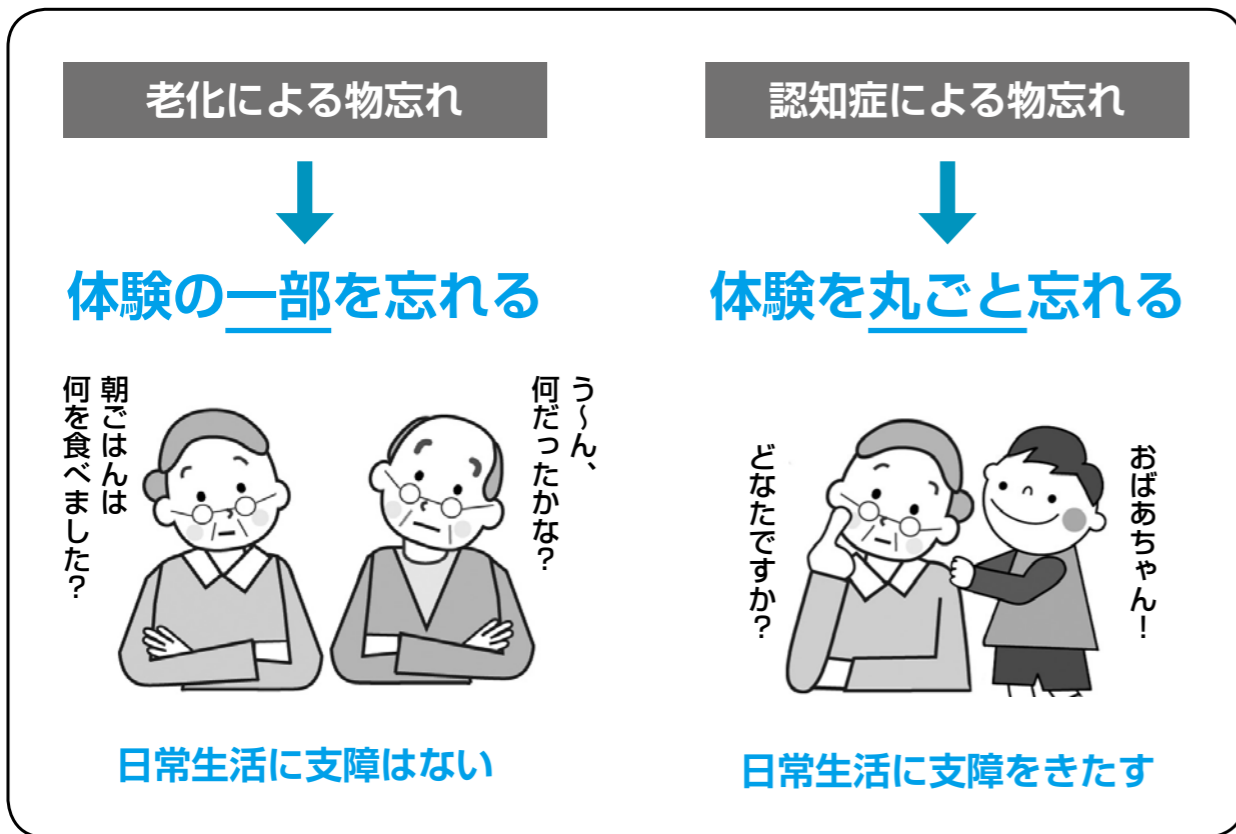
中核症状と周辺症状があります。

●**中核症状**…記憶障がい、見当識障がい（時間や場所、人などが分からなくなること）などが主な症状。脳の細胞が死んでしまうことによって直接起こる症状のため、治すことはできません。

●**周辺症状**…本人が元から持っている性格や置かれた環境、人間関係などさまざまな要因が関係して起こるもので、不安感や焦り、気分の落ち込み、幻覚・妄想、興奮・暴力などが主な症状です。本人の性格や心の状態などによって症状が違いため、出る人もいれば、出ない人もいます。周囲の対応により、周辺症状は改善することも、悪化することもあります。

認知症になりやすい危険因子は？

高血圧や高脂血症、糖尿病などの生活習慣病や、喫煙や多量の飲酒、塩分や肉類の多い食事、少食による低栄養などが危険因子です。



老化の物忘れと認知症の物忘れの違いは？

違いは「忘れ方」にあります。物忘れは「体験の一部」を忘れませんが、認知症は「体験を丸ごと」忘れてしまいます。例えば、「けさ、何を食べたか」との質問で、「何を食べたか思い出せない」というのは「物忘れ」、朝ごはんを食べたこと自体を忘れるのが「認知症」です。ほかに、認知症の物忘れの特徴として、「探し物が見つからないのは、誰かが盗んだから」と解釈してしまうことなどがあります。しばしば、自分なりの記憶や出来事を作り上げ（作話といいますが）たり、誤った解釈をして、実際には体験していないことを体験したと思込んで話すことなどがあります。

早期発見・早期治療が重要

医療的処置や薬の調整により、原因の病気が治ったり、認知症の症状が改善する場合があります。また、アルツハイマー病は薬で症状の進行を遅らせることができず。早期に専門の医療機関を受診することが不可欠です。